

Slovenia Monthly December 2022

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2023年1月17日



～12月の主なポイント～

内 政： ピルツ＝ムサル第5代スロベニア大統領の就任
外 政： クロアチアのシェンゲン圏加盟に際する独自の声明の発表
経 済： 国民議会、企業向けエネルギー支援策を可決
スポーツ： スキージャンパー、ラニシェク選手が今季ワールドカップ3勝

政治

【内政】

●ボブナル内相の辞任【9日、12日、14日】

9日、ボブナル内務大臣は辞表を提出した。同大臣は、警察の人事について政治的圧力があつたとして、7日に辞意を発表していた。ゴロブ首相は、いかなる圧力もなかったと否定しつつ、同大臣への信頼を失ったとして辞意を受入れた。警察幹部の人事についてボブナル大臣の意図する人物の就任・続投が認められなかったことや、ゴロブ首相が、警察の特定の人物を解雇することをボブナル大臣へ提案したことを受けて、首相と同大臣の関係は悪化していた。

ボブナル大臣はまた、汚職防止委員会(KPK)に政治的圧力の疑いを報告し、シュミKPK委員長は、委員会が同報告を受領し、優先事項として処理することを確認した。

12日、ゴロブ首相は、国民議会にボブナル内務大臣の辞任を通知し、アヤノビッチ＝ハウニク公共行政大臣が当面内務大臣代理を務めると述べた。ドネウニク紙によれば、ゴロブ首相は既に次期内務大臣のショートリストを作成しており、候補者としては内務省副大臣や大統領府の内務顧問等が上がっている。

14日、ゴロブ首相は、ボブナル内相の辞任に関する答弁で、ゴロブ首相の側近や所属政党の関係者が警察組織の人員配置に影響を与えようとしたことはない述べた。また、ゴロブ首相は、11月21日の議会

の質疑応答で、自分と家族の警備に関する質問が提出され、自分と家族を守る人を選ぶ権利が政治的に利用されたことが、ボブナル内相との不和のきっかけになったと述べた。同日、国民議会は、ボブナル内相の辞任を承認した。

●コス氏がGSを離党【12日】

元外交官のマルタ・コス氏は、「もはや私の政党ではない」として自由運動党(GS)からの離党を発表した。コス氏は、離党は退任する内務大臣への支持の表れでもあり、与党内の関係がますます緊迫している結果だと述べた。コス氏は9月に自由運動党の副党首を辞任したが、その2週間後には大統領選から離脱した。どちらの場合も個人的な理由を挙げたが、今回コス氏は、過去2回の辞任(副党首辞任と大統領選離脱)につながった党内の状況は変わっていないか、悪化していると述べた。

●ゴロブ首相が会長を務めたGEN-I社に対する公判前調査【16日】

16日、警察は、GEN-I社のセルビアでの疑わしい取引について、同社とその責任者に対する公判前調査を開始した。同社は取引当時、ゴロブ首相によって率いられていた。ムラディナ誌は、警察と検察の両方から、公判前の調査が開始されたという確認を受けた。これは、証拠収集と家宅捜索を含む犯罪捜査の段階であり、犯罪が行われたと疑う合理的な理由

がある場合に開始される。警察も検察も捜査の根拠について詳しく説明していないが、ムラディナ誌は非公式の情報源を引用して、捜査は、GEN-Iのベオグラード子会社による、コンサルタント契約に基づいた、モンテネグロのコンサルタントへのファンドの取引に基づくものだと報じている。本件疑いは、ゴロブ首相の自由運動党が圧勝した4月の総選挙の前に既に表面化していた。本捜査は、ムラディナ誌の情報源によれば、ヤンシャ前政権によるGEN-I社を民営化する試みに関係している。ヤンシャ前首相はゴロブGEN-I会長(当時)の続投を拒否していた。

●ロトリッチ新国民評議会議長の選出【19日】

19日の国民評議会において、測量会社ロトリッチ・メロスロウイエの創設者兼CEOであるマルコ・ロトリッチ氏が新議長に選出された。ロトリッチ氏は雇用主の利益団体の代表として国民評議会に参加しており、全40名の議員の同日2回目の投票において、同氏が21票、リュブリャナ市副市長のデヤン・ツルネク氏が13票を獲得した。1回目の投票ではロトリッチ氏が18票、ツルネク氏が12票、シュコルチュ元国民議会議長が8票を獲得していた。ロトリッチ新議長はビジネス界ではよく知られており、様々な団体に活動しているが、政治経験はなく、今回が評議員として最初の任期となる。同氏が1991年に設立し、現在38%の直接出資を行っているロトリッチ・メロスロウイエ社の2021年の純売上高は560万ユーロ、純利益は21万5千ユーロであった。

●ヤンシャSDS党首、侮辱的なツイートについてSDに損害賠償支払い【21日】

ヤンシャ民主党(SDS)党首が、社会民主党(SD)は「盗まれたユダヤ人の別荘」において運営されているとツイートしたことについて、裁判所が名誉毀損と判決を下し、ヤンシャ党首はSDに1万ユーロを超える賠償金を支払った。

●ピルツ＝ムサル新大統領の就任【22日、23日】

22日、ピルツ＝ムサル氏は、国民議会で行われた式典でスロベニア初の女性大統領として宣誓を行った。同氏は演説の中で、主権、平等、正義、福祉国家が危機に瀕したとき、常に声を上げることが誓った。また、法の支配、基本的人権、下部組織の自律性を擁護することを約束した。また、前任者のパホル大統領に対する感謝を表明し、「外交や国との関係では、象徴的なものが重要である。友好を深め、地域の人々の距離を縮める象徴的なジェスチャーや重要な動きは、過去10年間に於いて重要な意味を持った。」と述べた。

23日、ピルツ＝ムサル大統領は、大統領官邸で行われた就任式で、スロベニア第5代大統領に就任し

た。ピルツ＝ムサル大統領は、配偶者のアレシュ・ムサル氏とともに大統領府に到着した。スロベニア軍の最高司令官として儀仗兵を視察した後、レッドカーペットを歩いて大統領府に向かい、パホル前大統領はパートナーのターニャ・ペチャル氏と共に花束を持ってピルツ＝ムサル大統領を出迎えた。大統領府の壁には、ピルツ＝ムサル大統領がスロベニア初の女性大統領であることから、大統領を女性名詞化したプレートが設置された。新旧大統領のテタテ会談が行われた後、パホル前大統領は、この日のために集まった市民たちに挨拶をし、同行者とともに車で去り、ピルツ＝ムサル大統領夫妻は大統領府に戻った。小規模なデモが行われ、参加者は、紙で作られた象徴的な「スロベニア史上最悪の大統領に対する失望の腐ったバナナ」を持って集まった。

●政府、争点となっていたスロベニア国营通信(STA)規制を撤廃【22日】

政府は、前政権が採択したSTAの公共サービスに関する規制を廃止し、同機関が一括融資の形ではなく項目ごとに公的資金を提供されるシステムを構築した。これによって、STAの公共サービスの資金調達、規制発効前と同様に、毎年の資金調達契約として定められることになる。ヴレチュコ文化大臣は、STAが来年早々に2023年の年次協定に署名することを期待しているとした。

●国民議会による国民投票結果報告書承認【23日】

12月23日、国民議会は、3件の国民投票の結果を承認した。3つの法律の改正は官報に掲載され、発効する。RTVスロベニア及び長期介護に関する法律改正は有権者の3分の2近くの支持を受け、また政府法の改正については57%の支持を得た。

野党民主党(SDS)は、国民投票最終報告書に対する訴えに関する最高裁判所の判決がまだ最終的なものではないため、結果をまだ宣言できないと主張して、国民議会のセッションを妨害した。

国家選挙管理委員会が前週に国民投票の最終報告書を採択した後、NGOによって本件報告書に関する最高裁判所への申し立てが行われたが、法的な期限を過ぎてから提出されたため、最高裁判所によって却下された。

●独立記念日【25日】

スロベニアは、1990年に独立のための国民投票の結果が宣言された日を記念し、独立と統一の日を祝った。ピルツ＝ムサル大統領は、スロベニア独立のために投票した際にスロベニア人が示した勇気と団結に思いを馳せ、「我々が団結していたとき、幸運はいつも我々の味方だった」と述べ、相互尊重の重要性を強調した。政府も団結の重要性を強調し、「団

結してこそ、最良の解決策を見出すことができる」と述べた。

●RTVスロベニア法改正に対する異議申立て【29日、30日】

29日、公共放送の管理・監督機関を非政治化することを目的としたRTVスロベニア法の改正の発効に伴い、RTV スロベニア番組審議会のグレゴルチッチ代表が率いる憲法裁判所への異議申立てが行われた。発起人は、RTVの指導者の任期が終了したため、同社の独立性と自律性を確保するという自分たちの役割を否定されたと主張している。文化省は、この異議申立てが失敗することを確認していると述べ、国民投票に続くさらなる引き延ばし工作だと述べた。

30日、同法に対する憲法上の再検討のための2つ目の異議申立てが、ヴィリ・コヴァチッチ氏の主導で提出された。

【外政等】

●ゴロブ首相とオルバーン・ハンガリー首相、高圧送電線の開通式に出席【2日】

ゴロブ首相とオルバーン・ハンガリー首相は、スロベニアとハンガリーを結ぶチルコヴツェーピンチェ高圧送電線の完成記念式典に出席した。同送電線の設置は、1億6,000万ユーロで6月に完了し、4,800万ユーロがEUの支援によるもの。

●シャレツ国防相のCEDE閣僚会合出席【2日】

シャレツ国防大臣は、オーストリアで2日間にわたる中欧防衛協力(CEDE)イニシアティブ閣僚会合に出席し、西バルカン諸国とCEDEの協力の継続を支持するとともに、ロシアのウクライナ侵攻を非難し、ウクライナに対するスロベニアの支援を再確認した。また、西バルカン地域の安全と安定を維持し、同地域をEU加盟に向けて前進させるため、西バルカン諸国との協力への支持を表明した。

●ファヨン外相の地中海対話会議出席【2日】

ファヨン外相は、ローマで開催された2022年地中海対話において、「多国間主義の復活：危機の時代における国連」のパネルで演説し、国際関係における協力、対話、信頼の役割を強調した。同外相は、スロベニアは国連安保理非常任理事国に選出された場合、安全な未来のために信頼を築く誠実な仲介者、信頼できるパートナーとして行動すると述べた。また、国連食糧農業機関(FAO)の屈事務局長と世界的な食糧危機について議論した。

●ゴロブ首相とミシェル欧州理事会議長との会談【5日】

5日、ゴロブ首相は、ストルモル城でミシェル欧州理事会議長と会談した。両氏は、特にエネルギー分野、移民、ロシアによるウクライナ侵略、西バルカン諸国を中心としたEU拡大政策について議論した。ゴロブ首相は、欧州の統一、欧州産業の競争力維持、欧州市民がEU機関のパフォーマンスをどう評価するかは、エネルギー問題にかかっていると述べ、同テーマについて閣僚及び首脳レベルで議論すると述べた。両氏はまた、移民、特に(移民の)西地中海ルートについて議論した。両氏は、西バルカン諸国におけるビザ制度の調和が極めて重要であり、一定の進展が見られるものの、その継続を主張することが必要であるとの認識で一致した。また、ウクライナへの財政支援を継続するために適切な政治的条件を提供することに言及した。

●スロベニア・イタリア大統領会談【5日】

パウル大統領は、マツレツァ伊大統領の招待によりワーキングランチを行った。パウル大統領はワーキングランチで、トリエステの国民会館のスロベニア人

少数民族への返還や、両大統領がファシズムの犠牲者を弔うイベントなど、「我々が共有する過去の重荷を克服する」ために行ってきた活動の重要性を強調した。

●スロベニア、ウクライナミッションに最大30人の兵士を提供へ【8日】

国民議会の防衛・外務委員会は、ウクライナ兵の訓練に参加する政府の決定について議論し、委員会は、スロベニアがEUミッションのために最大30人の兵士を提供することを発表した。スロベニア軍から最大30名が、11月中旬に正式発足したEUウクライナ軍事支援ミッション(EUMAM)に参加し、個人および旅団の訓練と、特殊部隊の訓練を行う予定。

●クロアチアのシェンゲン圏加盟に際する独自の声明の発表【8日】

8日、クロアチアのシェンゲン圏加盟に伴い、スロベニアとクロアチアは国境仲裁の決定について独自の声明を発表した。スロベニアの声明では、スロベニアはクロアチアのシェンゲン圏加盟を支持しており、それは「欧州共通の利益」であるとしている。STAが入手したスロベニアの声明には、「スロベニアは、両国の陸と海洋の国境が、2009年11月4日の仲裁合意の第7条に従い、最終的かつ拘束力を有する2017年6月29日の仲裁裁定によって完全かつ決定的に確立されていることを強調する。」と記載されている。政府及び関連する国民議会の委員会によって承認された同声明は、スロベニアが仲裁判決を国内法化したと付け加えている。これに対しクロアチアも独自の声明を作成し、2017年に下された仲裁判決にいかなる形でも拘束されず、これを履行しないという立場を改めて表明した。同声明はまた、両国が共有する陸と海洋の国境は国際法に沿って決定されておらず、クロアチアは共通の解決策を見つけるためにスロベニアとの二国間対話を継続することに引き続き前向きであるとしている。

●国境管理に関するボブナル内相の発言【8日】

8日、EU内相会合の後、ボブナル内相は、スロベニアは、クロアチアがシェンゲン圏の外部国境の保護に関する義務を一貫して果たすことを期待し、同国のシェンゲン圏への加盟を支持すると述べた。同大臣は、スロベニア警察は何年も前からクロアチアのシェンゲン圏加盟に向けた準備を進めてきたとし、クロアチアのシェンゲン圏加盟の「代替措置」の一環として、シェンゲン圏内国境の監視とスロベニア国民の安全を確保するための戦略を準備していると述べた。内務省は、国境管理のための2つの専門部隊は、通常通り国内全域で警察の任務を遂行すると述べた。同省はまた、移動警察部隊は、主要な道路接続部、鉄道

やバスの駅など、不法移民や国境を越えた犯罪のリスクが高まっていると分析される場所に特に重点を置く付け加えた。

●ファヨン外相、OACPSへの出席【9日】

ファヨン外相は、アンゴラの首都ルアンダで開催されたアフリカ・カリブ・太平洋諸国機構(OACPS)第10回首脳会合に出席した。ファヨン外相は、アフリカとの友好と連帯に対するスロベニアの強いコミットメントを強調するとともに、EUとアフリカ、カリブ海、太平洋諸国の関係をさらに強化し、対話を継続するための確固たる意志を表明した。同外相はまた、スロベニアの国連安全保障理事会非常任理事国立候補についても説明した。

●ゴロブ首相らMED9諸国首脳、ガス価格の引き下げを要望【9日】

ゴロブ首相を含むEU地中海沿岸諸国(MED9)の首脳は、スペインのアリカンテで開催された首脳会合で、ロシアによるウクライナ侵攻を背景としたエネルギー安全保障について議論した。各国首脳は、ガス価格は制限されるべきであり、信頼できないパートナーへの依存を減らし、EUの戦略的自立に向けて努力することが急務であるとの認識で一致した。ゴロブ首相は首脳会合の後、連帯の重要性を強調し、不当なガス価格に対処するための協定の締結を促した。また、地中海は大きな可能性を秘めており、中欧の内陸国がロシアのガスから独立するために提供できることはたくさんあると述べた。

●ファン・デア・ベレン大統領のスロベニア訪問【9日】

9日、パホル大統領の招待により、ファン・デア・ベレン大統領がスロベニアを公式訪問した。会談後の記者会見で、両大統領は、両国の素晴らしい関係、そして個人的な友好関係を強調した。パホル大統領は、オープンで友好的な対話に感謝し、良好な二国間関係に対するファン・デア・ベレン大統領の個人的な貢献に対して感謝の意を述べた。また、両大統領は、ウクライナにおける戦争、エネルギー供給、気候変動等についても議論した。両大統領はまた、クロアチアのシェンゲン圏加盟を歓迎し、クロアチアが国境画定に関する裁判所の判決を拒否し続けているにもかかわらず、スロベニアの政治がクロアチアのシェンゲン圏加盟を支持していることは、成熟と知恵の表れであると評価した。

●コソボとセルビアの紛争への解決支援【12日】

12日、ファヨン外相は、ブリュッセルで開催されたEU外相会議に出席し、コソボとセルビアの紛争の永続的な解決策を見つけるためのEUの試みにスロベニ

アの支援を申し出た。ファヨン大臣は会議後、EUはベオグラードとプリシュティナの間で包括的な合意を求める提案を検討していると述べ、「この提案が両国間の状況を正常化し、落ち着かせるための鍵である」とした。また、「交渉はできるだけ早く始まるべきだが、開始されれば、同地域に詳しいフランゲシュ・スロベニア外務省西バルカン特使と、具体的な支援策を提供したい。」と述べた。

●スロベニア軍の新車両の受領【13日】

スロベニア軍は、ウクライナに送った戦車との交換で、戦術8輪車40台をドイツから受領した。また、オシュコシュ社の軽戦術車38台も納入された。

●イタリアとスロベニアの共同国境パトロール【14日】

スロベニア警察は、スロベニアとイタリアの国境における不法移民の数を考慮し、両国は再び共同国境パトロールを設置したと述べた。国境警備隊員は、スロベニアからイタリアへ移動するバス、列車、車についてもチェックを行う予定。この国境共同パトロールは、不法の越境が最も頻繁に起こる地域と時間帯で実施される。

●スロベニア、バーリに領事館を開設【14日】

スロベニアは、南イタリアのバーリに領事館を開設した。同領事館は、プーリア州とモリーゼ州を管轄する。官報に掲載された法令によれば、フェルディナンド・パレンテ氏が同領事館の名誉領事に就任する。

●スロベニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)のEU加盟候補国入りを歓迎【15日】

15日、スロベニア要人達は、BHにEU加盟候補国としての地位を与えるというEU首脳決定を歓迎した。パホル大統領はBHとその市民を祝し、「これは始まりに過ぎないが、ついにハッピーエンドの物語の始まりになる。」と述べ、これは西バルカンの新しい希望の誕生でもあった。ゴロブ首相は、加盟候補国地位付与は、EUが最近取った中で最も重要な地政学的及び政治的決定の1つであると評し、「我々は、BHの人々に、彼らの未来が我々の共通のヨーロッパの家にあることを伝えた。」と述べた。また、スロベニアがBHの候補国地位のために熱心にロビー活動を行い、加盟国間のコンセンサスを達成するために懸命に取り組んできたことを強調し、これが「スロベニアにとって大きな成功である」と述べた。ファヨン外相は、スロベニアがBHの加盟立候補を支持して主導的な役割を果たしたことを誇りに思っていると述べた。

●EU・ASEAN首脳会合【15日】

ファヨン外相は、ブリュッセルで開催されたEU・ASEAN首脳会合のサイドラインで、複数の二国間会談

を実施した。リム・ジョクホイASEAN事務総長との会談で、ファヨン外相は、同連合及びASEAN加盟国との政治・経済協力、ならびにEUのインド太平洋戦略の一環としての協力強化に対するスロベニアの関心について確認した。

●スロベニア警察、EUAMウクライナに継続参加へ【15日】

15日、政府は、国際的な民間ミッションであるEUアドバイザリー・ミッション・ウクライナ(EUAMウクライナ)へのスロベニア警察の参加を、最大5名まで拡大することを決定した旨発表した。同ミッションの目的は、ウクライナにおいて、国民の信頼を得られるような、効果的で説明責任のある文民治安部門を確立することである。

●ゴロブ首相のバチカン訪問【17日】

ローマ法王フランシスコは、ゴロブ首相を歓迎し、両者はスロベニアとバチカンとの良好な関係に言及し、引き続き協力していきたい旨表明した。ローマ法王は、EUの西バルカン諸国への拡大、ウクライナでの戦争とその欧州への影響について言及した。ゴロブ首相は報道陣に対し、ローマ法王と、ウクライナの惨状が西バルカン諸国へ波及しないよう、予防的に行動する方法について議論したと述べた。また、法王とゴロブ首相は、スロベニア社会におけるカトリック教会の積極的な貢献にも言及した。

●ファヨン外相のセルビア公式訪問【20日】

ファヨン外相はセルビアを初めて公式訪問し、ヴチッチ大統領、ブルナビッチ首相及びダッチッチ外相と会談した。ファヨン外相は、良好な二国間関係と経済協力、EU加盟に向けたセルビアへのスロベニアの支援を強調した。ファヨン外相はヴチッチ大統領との会談で、両国のダイナミックで実質的な協力関係について指摘した。外務省によれば、両国の貿易額は20億ユーロ近くに上り、経済の協力関係は並外れている。ブルナビッチ首相との会談で、ファヨン外相は、セルビアのEU加盟に対するスロベニアの継続的な支持を強調した。

●ファヨン外相のモンテネグロ訪問【21日】

21日、ファヨン外相とシャレンベルク境外相は、ボレルEU外務・安全保障上級代表の要請によって、同上級代表の代理としてモンテネグロを訪問した。両外相は、ジュカノビッチ大統領、アバゾビッチ首相及びジュロビッチ議長とそれぞれ会談した。

モンテネグロは、制度上及び政治上の大きな課題に直面している。モンテネグロ要人との会談で、両外相は、モンテネグロの政治危機が深刻化し、民主的制度を損ない、モンテネグロのEU加盟に向けた改革

プロセスの進展が阻害されていることについて、EUの懸念を表明した。また、全ての政治主体が民主的機関、特に憲法裁判所の安定と機能を支持し、更なる不安定につながる可能性のある行動を控える必要があることを強調した。

ファヨン大臣は、政治的及び制度的危機の解決策を見つける上で、対話と関与が果たす役割の重要性を強調した。「モンテネグロは、政治的・制度的な危機を克服すべき時期に来ている。その結果、機能する憲法裁判所を設立し、憲法判事を任命することが不可欠となる。憲法裁判所が機能しなければ、EU加盟交渉を進展させることはできない。」と強調した。

●スロベニア、コソボ駐留部隊の増派を計画【22日】

シャレツ国防相はコソボ駐留部隊を訪問し、ミケレ・リストウッチャ・コソボ国際安全保障部隊(KFOR)司令官との会談の中で、スロベニアは、コソボのKFORミッションに配備されている部隊の人数を増やす予定であると述べた。国防省によると、スロベニアは、文民専門家およびコソボに待機する陸軍ヘリコプターを増加する。

●ウクライナからの負傷者、スロベニアで初の治療を受ける【27日】

政府広報局は、スロベニアがウクライナから2名の負傷者を受け入れ、治療を開始したと発表した。スロベニアは、ウクライナからの負傷者や病人に治療を提供する他の18のEU加盟国に加わった。負傷者2人とその付き添い人は、スロベニア軍によって空路で移送された。

●ウクライナに救急車を寄贈【30日】

スロベニアはウクライナに2台の救急車を寄贈し、ファヨン外相からタラン駐スロベニア・ウクライナ大使に贈られ、スロベニアが人道支援を継続することを約束した。外務省はこのために58万ユーロを提供し、21万ユーロ相当の2台は近日中にウクライナに輸送され、3台目は保育器を搭載し、遅くとも4月にはウクライナに送られる予定。

●電力会社、ウクライナに336, 484ユーロの支援金を寄付【29日】

タラン駐スロベニア・ウクライナ大使は、スロベニアのエネルギー企業から寄付された機器がウクライナに発送されたことを明らかにし、少なくとも1万人に「光、暖房、希望」をもたらすだろうと述べた。ゴロブ首相の呼びかけに応じ、スロベニアのエネルギー企業9社が変圧器、発電機、バーナー、電気モーターなど33万6, 484ユーロ相当の設備を寄贈した。クメル・インフラ相は、来年もスロベニアはウクライナを支援することを約束した。

経済

【エネルギー関連】

●エネルギー企業の超過利潤税についての法案が可決【1日、9日】

1日、政府は、再生可能エネルギーへの助成とピーク時の電力需要削減のための対策に充てるため、2022年と2023年にエネルギー企業に追加の課税を行う緊急法を採択した。この法律では、スロベニアで生産され、市場で販売された電力の1MWhあたり180ユーロを超える収入は、国家予算に吸収される。

9日、同法案を可決し、セルシェン・インフラ省副大臣は、同法律により、スロベニアの輸入依存度を下げ、エネルギーの最終消費者を保護し、余剰利益を家庭への支援策に回すことができると述べた。一方、野党は、同措置はその場しのぎであり、包括的な戦略がないと批判した。

●HSE、3億ユーロの国家資本注入を受ける【5日】

政府は、国営エネルギーグループであるHSEに3億ユーロの資本増強を行った。HSEによると、同グループ傘下の企業の危機は年末までに4億6千万ユーロのマイナスをもたらしているため、同グループに対する8億ユーロの国家による保証にもかかわらず、銀行に融資を拒否されていたとのこと。同社は遅くとも2024年末までには返済する予定である。

●政府、公共機関の電気・ガス料金に上限設定へ【12日】

家庭や企業向けの電気料金、地域暖房用の天然ガス料金に上限を設け、暖房用オイルの価格規制を導入した後、政府は、公共機関、公益事業、公共機関、公共基金、自治体向けの電気・ガス料金制限の規則を作成した。現在、公開討論の段階にある同規制に従って、電力供給会社は2023年に顧客の2021年の消費量の80%を、ガス供給会社は予測消費量の80%を規制価格で供給することが義務付けられることになる。許容される電力小売価格の上限は、1MWhあたり207ユーロとなる。

●コペル港、太陽光発電所を計画【15日】

港湾運営会社のルカ・コペルは、EUが資金提供するプロジェクトの一環として、スロベニアで2番目に大きな太陽光発電所の建設を計画している。3MWの発電設備は2024年3月に完成し、港湾運営会社の需要の約10%をまかなうことが期待されている。同プロジェクトは360万ユーロで、210万ユーロがEUの資金で賄われる。

●国民議会、企業向けエネルギー支援策を可決【16日】

国民議会は、エネルギー危機を克服するために企業部門を支援することを目的とした12億ユーロ相当の法案を可決した。この法律は1月1日に発効し、2023年末まで適用され、電気、ガス、蒸気の高値に対する補助金、一時休業やパートタイム労働に対する国家補助制度、流動性融資が含まれる。

●スロベニア、オーストリア、クロアチアのガス事業者、水素で協力へ【17日】

スロベニア、オーストリア、クロアチア各国のガスネットワークのシステムオペレーター企業は、水素の伝送に関するインフラの開発で協力することに合意し、協力覚書に調印した。同覚書は、スロベニアの「Plinovodi」社、オーストリアの「Gas Connect」社、クロアチアの「Plinacro」社によって16日に署名された。各事業者は、欧州横断的エネルギーインフラのガイドラインに関するEU規制に従い、エネルギーインフラの開発に関して協力を継続することに合意した。

●政府、ELES社に1億7,000万ユーロの支援を確約【22日】

政府は、2023年に発生するネットワーク損失をカバーするための電力購入が円滑に行われるように、2022年内に送電事業者ELES社に対する1億7,000万ユーロの支援を行うことを決定した。ポシュトヤンチッチ財務相は報道陣に対し、流動性が逼迫しているため、ELES社は金融機関から必要な資金を時間内に調達することができず、そのため、国からの追加資金が必要となると述べた。

●ペトロール社、価格規制により2億1,000万ユーロの損害が発生したと発表【27日】

燃料価格の規制は、エネルギー会社ペトロールに1億9,400万ユーロ以上の損害を与えたことが、同社の最新の株主総会で明らかになった。ポポビッチCEOは、電力と燃料の規制により、合計2億1,000万ユーロの損害が発生し、緊急法が採択されない限り、2023年には2億4,810万ユーロまで上昇する可能性があるとして述べた。経営陣は、他の解決策がうまくいかなかった場合、損害賠償を請求する準備を進めている。

●中小企業の電気料金に上限を設定【30日、31日】

政府は、1月1日から6カ月間、中小企業向けの電力料金に上限を設けることを決定した。電力小売価格の上限は、ピーク料金が1MWhあたり217ユーロ、オフピーク料金が155.5ユーロ、フラット料金が195ユーロ（付加価値税を除く）。企業に節電を促すため、

上限は2021年の同時期の消費量の90%に適用される。供給者は当該消費者への供給を停止することはできず、要求に応じてオファーを提供し、それを基に契約を締結する必要がある。

企業はこれを歓迎し、以前から価格上限を要求してきた貿易工芸・小規模企業会議所(OZS)は、これまで市場が機能していなかったため、これが小規模企業の競争力を維持するための唯一の解決策だと述べた。商工会議所(GZS)は、大多数の企業が上限価格の適用を受けられることが利点だと述べた。

【その他】

●商工会議所新事務局長の任命【9日】

商工会議所(GZS)は、GZS産業政策担当常務理事であったヴェスナ・ナフティガル氏を新事務局長に任命した。アレシュ・カンタルutti氏の後任として、2023年1月1日から4年間の任期を務める。

●マリボル、デジタル化のためのハブを開設【9日】

企業、組織、公共機関にデジタル化のサポートを提供するデジタルトランスフォーメーションのための新拠点(EDIH DIGI-SI)がマリボルに開設された。これは、欧州委員会の一部資金援助によるスロベニアで2番目のデジタル化のための拠点であり、1番目の拠点はノボ・メストに所在している。EDIH DIGI-SIには7つの組織が参加し、330万ユーロ相当のプロジェクトとして、700の中小企業への支援を行う予定である。

●中央銀行、スロベニア経済の急減速を予測【16日】

スロベニア中央銀行は、スロベニアのGDP成長率予測を大幅に引き下げた。今年の経済成長率は5.8%から5%に、2023年にはわずか0.8%(本年6月発表時は2.4%)になると予測される。インフレ率は9.3%に達し、11月には10%を超えたが、来年は6.8%と予想されている。また、2024年の消費者物価は4.2%上昇すると予測されている。

●コペルニクス計画に1億5,000万ユーロの契約を締結【20日】

リュブリャナのハイテク企業である「Sinergise社」は、欧州宇宙機関(ESA)と1億5,000万ユーロの契約を結び、EUの地球観測計画であるコペルニクス計画のデータ追跡、処理、配信システムを構築し、スロベニアの宇宙技術に新たな取引をもたらすことになった。同契約には、世界最大の地球観測システムであるコペルニクス計画からのデータへのオープンアクセスが含まれる。これにより、「Sinergise社」の収益が向上し、スロベニアの地球観測産業全体に影響を与えると予想される。過去6年間で、スロベニアの企業

はESAと60件以上の契約を結び、その総額は約1,800万ユーロにのぼる。

●コペル港、年間コンテナ積み替え量が100万個に【22日】

コペル港は、アドリア海で初めて年間コンテナ積み替え量が100万個に達した港となった。さらに、自動車の積み替えは80万台を超える見込みで、コペル港は地中海で最も重要な自動車用港湾となる。クメル・インフラ大臣は、政府としては、コペル港の発展の主な障害を取り除くため、現在進行中の第二鉄道路線建設を進めていくとした。

●コペル港、低排出ガス船の港湾使用料を引き下げへ【27日】

港湾運営会社ルカ・コペルは、コペル港において、排気ガス排出量の少ない船舶の港湾使用料が5%から10%引き下げられると発表した。この削減は、環境に優しい船舶インデックスプログラムに参加している船舶に対して1月1日から適用される。ルカ・コペルは、環境への影響を減らす活動に海運会社を含めるよう努めている。

治安

●強盗事件【2日】

2日、リュブリャナ市のヴィッチ地区にある店舗に2人組の男が押し入り、販売員の女性に現金を要求し、レジから現金を奪って逃走した。犯人の内1人は銃を持ち、もう1人は刃物を所持していた。

●強盗事件【22日】

22日、シュコフィア・ロカ市の店舗に男が侵入して店員を刃物で脅し、現金を奪って逃走した。

●強盗事件【31日】

31日、ノヴァ・ゴリツァ市のソルカン地区にあるガソリンスタンドに覆面をした男が侵入して従業員をナイフで脅し、現金数百ユーロを奪って逃走した。

社会・文化・スポーツ

【スポーツ】

●2022年のベストアスリート選出【13日】

円盤投げのクリスチャン・チェフ選手、スキージャンプのウルシャ・ボガタイ選手、そしてスキージャンプ混合チームが、スロベニアスポーツジャーナリスト協会が実施した2022年アスリート・オブ・ザ・イヤーの栄誉を手にした。チェフ選手は世界陸上選手権とダイヤモンドリーグで金メダルを獲得、ボガタイは2022年冬季五輪の個人種目と混合種目で金メダル、ワールドカップでは総合順位で3位を獲得している。

●スキージャンパー、ラニシエク選手が今季ワールドカップ3勝目【17日】

現在スロベニアで最も優秀なスキージャンパーであるアンジェ・ラニシエク選手が、第2戦においてシーズン首位のクバッキ選手を破り、今季ワールドカップ2勝目を挙げた。これでワールドカップ通算18回目の表彰台となり、現在総合ランキングではクバッキ選手(550ポイント)に次ぐ2位につけた。17日に出場したスロベニアのジャンパーは全員がファイナルシリーズへの進出を決めた。

●スノーボーダーのコトニック選手がワールドカップ初優勝を飾る【17日】

グロリア・コトニック選手は、女子パラレル大回転で優勝し、ワールドカップ初優勝を飾った。コトニック選手は予選で5位につけ、決勝まで相手を圧倒し、ラモーナ・ホフマイスター選手(ドイツ)を破った。「長い間待っていたことが実現し、本当に素晴らしい」と報道陣に語った。これまでに彼女は、4度ワールドカップで4位に入賞し、2022年冬季オリンピックでは銅メダルを獲得したが、ワールドカップでの表彰台は初めて。

●シュトヘッツ選手、ワールドカップ・ダウンヒルで2位【17日】

イルカ・シュトヘッツ選手は、アルペンスキーワールドカップの女子ダウンヒルで2位となり、自身にとって約4年ぶりのワールドカップでの表彰台となった。マリボル出身のダウンヒルのスペシャリストである彼女は、挫折や怪我に悩まされた数シーズンの後の入賞であったため、「ゴールでタイムを見たとき、本当に驚いた」と述べた。

●スキヤー ヤン・クラニエツ選手、今季3度目の表彰台に【19日】

イタリアで開催されたワールドカップ大回転で、スロベニアのジャン・クラニエツ選手が3位に入賞、今シーズン3度目の表彰台となった。1位は0.92秒差でス

イスのマルコ・オーデルマット選手、2位はノルウェーのヘンリック・クリストファーセン選手だった。

●ドンチッチ選手、NBA初の60点トリプルダブルで歴史に名を刻む【28日】

NBAのルカ・ドンチッチ選手が、60得点、21リバウンド、10アシストを記録し、ダラス・マーベリックスをニューヨーク・ニックス戦(126:121)に勝利させ、NBA史上初のトリプルダブルという素晴らしい活躍を見せた。また、マーベリックス史上初の60点ゲームは、ドンチッチ選手のリバウンド数でもキャリアハイとなった。このトリプルダブル以前に、50得点と20リバウンドを超えるトリプルダブルを達成したのは2人の選手だけであり、これもまた歴代最高記録である。

●柔道家ティナ・トレスティニャク選手、現役生活にピリオド【31日】

スロベニアで最も成功した柔道家であり、オリンピック金メダリストで世界チャンピオンでもあるトレスティニャク選手が、引退を発表した。32歳の彼女は、デロ誌のインタビューに「非常に誇りに思う大きな成功を収めることができたが、ある時点でやめる時が来たという結論に達した」と語った。彼女は2016年のリオデジャネイロ・オリンピックで金メダルを獲得、同年には世界と欧州チャンピオンにもなり、2020年の東京大会では銀メダルを獲得した。

【生活・科学技術・その他】

●ノバルティス・スロベニアとリュブリャナ大学が、ベスト・ビジネス・プラクティス賞を受賞【6日】

AmCham Slovenia は、Best of the Best プロジェクトの一環として、製薬会社のノバルティス・スロベニアとリュブリャナ大学を、今年のベストビジネスプラクティス賞の受賞者とした。この賞は、ノバルティスとリュブリャナ大学が共同で行ったプロジェクト「産業と大学 - 共に知識と繁栄の社会を築こう」に対して贈られた。このプロジェクトは、新しいスキル、経験、能力、実践、才能を開発するために、学問の世界と企業を結びつけるものであるとのこと。

●スロベニアの洞窟の汚染状況、改善されつつある【11日】

スロベニアのカルスト洞窟は、重要な自然資産であるが、そこに蓄積された廃棄物汚染は依然として問題であり、地下の飲料水源を脅かしている。洞窟学者で研究者のユーレ・ティチャル氏は、スロベニアにある約14,700の洞窟のうち20~30%が廃棄物で汚染されていると推定している。「一般に、洞窟は廃棄物の投棄場所として使われた経緯があり、村や道路の近くにある洞窟であるほど、より汚染されている」と

語った。歴史的に最も多くの廃棄物が投棄されたのは1990年代までである。

●ポーヒンが「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」に選出される【20日】

世界観光機関が選定するベスト・ツーリズム・ビレッジ(観光を通じて地域の発展を助け、多様な自然・文化遺産を維持している村や農村部の観光地を表彰する)に、湖畔のリゾート地ポーヒンが仲間入りを果たした。ポーヒンは、130以上のエントリーの中から選ばれた32の目的地の一つとして選ばれた。

●開業医が医療危機を緩和するための解決策をいくつか提案【21日】

一般開業医協会は、開業医の不足に起因するスロベニアのプライマリーヘルスケア危機を緩和するのに役立つと考える一連の解決策を提案した。提案によれば、いくつかの権限を医師から看護師に移譲し、しばらくの間、公的医療に従事することを約束する医学生に奨学金を支給することが含まれており、さらに、医学的な判断を必要としない事務的な事柄は、公的な健康保険組合に引き継がれるべきであるとされている。

●14%の高齢労働者が仕事の延長を検討【25日】

11月に実施された欧州社会基金と労働・家族・社会問題・機会均等省による調査によれば、スロベニアの高齢労働者の40%強が、退職条件を満たした時点で退職する予定であり、14%が年金支給年齢に達した後も最長で3年間、仕事上の活動を延長したいと考えていることが、最新の「職場における世代間協力」調査で明らかになった。

●博士号取得者のスロベニア移住が増加【27日】

2021年にスロベニアに移住した第三次教育を受けた国民の数が、国外に移住した数よりも多いことが明らかになった。2021年にスロベニアに移住した25歳から64歳のスロベニア国民のうち、42%が第三次教育を受けており、対して国外に移住した国民では39%であった。さらに、統計局によると、2021は博士号を持つ外国人のスロベニアへの移住が多いことがわかった。

日・スロベニア外交関係樹立30周年に関する主要行事の結果概要

2022年の日本・スロベニア外交関係樹立30周年を記念して、これを契機に二国間関係をさらに発展させるため下記のとおり様々な行事を実施しました。

(1) 30周年記念講演会(2022年3月17日)

「Japan's Smart Agriculture towards Sustainable Society」をテーマとしたオンラインセミナーを開催しました。日本のSociety5.0や先端技術等に関心が高い方々に対し、日本のスマート農業に関する取組を発信するとともに、スロベニアの専門家と議論を行い、現状認識の共有及び協力可能な分野に関する意見交換を実施しました。

(2) 夏の日本映画週間(2022年5月30日～6月10日)

5月末からの「日本文化の夏」の期間に「日本映画週間」実施し、ベジグラッド映画館及びスロベン・グラデツ市文化センターにおいて4本の映画を上映しました。

(3) 日本関連書籍フェア(2022年6月1日～6月30日)

リュブリャナ市中央にあるMladinska Knjiga本店において、日本関連書籍フェアを開催し、和食、日本観光、金継ぎ等様々な日本に関する書籍を展示しました。

(4) 第10回Japan Day 2022(2022年6月11日)

スロベニアの皆様へ、茶道や華道をはじめとする日本の伝統文化、和食、アニメーションや漫画など様々な切り口から、日本について知っていただくため、毎年恒例イベントとして実施してきたスロベニアにおける最大の日本のお祭り「Japan Day」を3年ぶりに実施しました(2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によりオンラインでの実施、2021年は同感染症による規制のため中止。)。



書道パフォーマンス



御神輿御渡の様子



浴衣着付け体験

(5) 漫画原画展(2022年6月13日～8月31日)

スロベニアで初めてプロの邦人漫画家の全面協力を得て漫画展を実施。漫画家赤石路代先生の60点ほどの原画を展示するとともに、作画の様子を撮影した動画ストリーミングを実施しました。

(6) 「育つ本プロジェクト」セレモニー(「万葉集」レクチャー等)(2022年10月25日)

スロベニア国民評議会(上院)が、科学アカデミー等と共同で実施している、スロベニア人が識字の始まりから今日まで、本とともに生きてきたことへの感謝の気持ちを表し、本を通じて世界の文化、科学的対話、平和的共存を築くことを目的とする「育つ本プロジェクト(United Growing Books of the World)」について、日スロベニア外交関係樹立30周年を記念し、日本の書物(万葉集)の文言を刻んだ石版を少女座像の下に挟み込むセレモニーを実施しました。セレモニー会場では万葉集レクチャー及び和楽器演奏、和食紹介を実施するとともに、日本及び万葉集の紹介動画を作成して公式サイトで公開しました。

(7) 中村天平氏ピアノコンサート(2022年6月29日)

日スロベニア絵画交流展の開会に合わせて、作曲家・ピアニストとして各国で活躍されている中村天平氏のピアノコンサートを開催しました。中村氏が作曲した日本文化にインスピレーションを受けた曲や、赤とんぼ等日本国民になじみ深い曲を演奏しました。

(8) 絵画交流展「日本スロベニアArt-《紡がれる美》2022 展」(2022年6月29日～7月27日)

日本とスロベニアの現代アーティスト計22名の作品(絵画、オブジェ等)合計50点以上を展示する交流展を開催しました。日本からは、濱野年宏氏、永井崇幸氏、寒川典昭氏など計6名、スロベニアからは、アンドレイ・イエメツツ氏など16名のアーティストが参加しました。

(9) 国際交流基金海外巡回展「構築環境:もう一つの日本ガイド」(2022年7月11日～8月21日)

日本の各都道府県に現存する建築、土木、ランドスケープなど80点を取り上げ、写真とテキストと映像で紹介しました。地理的に多様で、多くの自然災害に見舞われてきた日本において、人々が自然環境とどのように対話し格闘してきたか、どのように地域性を継承し創造してきたかという観点から、日本各地の建造物を取り上げて、従来あまり紹介されてこなかった日本の一面を紹介しました。

(10) 国際農業・食品フェア(AGRA)へパートナー国として参加(2022年8月20日～8月25日)

毎年8月にスロベニアで開催されている中・東欧地域で最大規模のゴルニャ・ラドゴナ国際農業・食品フェア(AGRA)にパートナー国として参加しました。スロベニアのパホル大統領、ファヨン副首相兼外務大臣、シンコ農業食料大臣等の要人も日本パビリオンを視察しました。日本産農林水産物・食品等(以下「日本産品」という。)の輸出拡大につなげることを目的として、日系企業のAGRA出展をサポートし、食料品関連に加えて、すでにスロベニアで高い評価を得ている機械メーカーや、先端的な生産や研究で注目を集めている団体など合計12社が出展しました。また、AGRA会場内の日本パビリオンにおいて、出展・参加企業による日本産品の紹介・試食や、日本人シェフによる調理実演などを実施しました。さらに、セミナー会場では、スマート農業、日本市場への参入等、スロベニアにおいて関心を共有する様々なテーマについて講演を実施しました。



日本パビリオン



パホル前大統領による
日本パビリオン視察



日本政府主催レセプション

(11) 桜プロジェクト

スロベニアの各地では、2021年の東京オリンピック・パラリンピック大会の開催、2022年の日・スロベニア外交関係樹立30周年を記念して、スロベニア日本ビジネス協会(SJBC)の協力の下、日本企業と地方自治体等が共同して日本のシンボルである桜を植樹する「桜プロジェクト」が合計12の地方自治体等で実施されています。



植樹式の様子(コチェウイエ市)



植樹された桜



記念プレート

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281又は8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp
Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。http://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_si/Zivljenje_na_Japonskem.html

【領事班からのお知らせ】

●小選挙区間における較差を2倍未満に是正するため、関連法令の改正により衆議院小選挙区の区割りが改定されました。新しい小選挙区の区割りは、令和4年12月28日(法令施行日)以降に実施される衆議院総選挙から適用されます。詳しくは、以下のリンク先を御確認ください。

【当館HP:在外選挙:衆議院小選挙区の区割り改定等について】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00717.html

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。在留届の提出は、オンライン在留届(ORRネット)が便利ですので、ぜひご利用ください。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●新型コロナウイルス:引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関するスロベニアの出入国規制などについてまとめたものを公開していますのでそちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページ】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00027.html

●当地での在留許可取得や在留許可延長手続きの際に必要な警察(犯罪経歴)証明については、申請から交付までに約2~3か月かかります。お手続きに必要な期間をあらかじめ考慮していただき、余裕を持って申請を行っていただくようお願いいたします。

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することが出来ます。ぜひご利用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府は、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しています。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～（総理官邸）

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について（厚生労働省）https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en.html>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府（英語）：<https://twitter.com/govslovenia>

●政府（スロベニア語）：<https://twitter.com/vladars>

（英語版と若干内容が異なります。）

●外務省：<https://twitter.com/mzzrs>

（主にスロベニア語）

●保健省：<https://twitter.com/minzdravje>

（主にスロベニア語）

【広報文化班からのお知らせ】

●スロベニア語字幕付 Japan Video Topics 配信中

当館 YouTube チャンネルにおいて、日本の文化や技術を紹介する Japan Video Topics のスロベニア語字幕版（英語音声）を配信しております。

Embassy of Japan in Slovenia – YouTube

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>